

第5学年 国語科学習指導案

2組 計31人（男子16人，女子15人）

指導者 田之上 貴文

- 1 単元 すぐれた表現に着目して，物語のみりよくを伝え合おう
（教材「大造じいさんとガン」光村5年）

2 単元の目標

登場人物の相互関係や心情，場面についての描写を捉え，作者の優れた表現に着目して物語の魅力をまとめるとともに，それを発表し合い，考えを広げたり深めたりすることができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	C 読む能力	言語についての知識・理解・技能
物語を読んで印象づけられた優れた表現を基に物語の魅力をまとめることに，興味・関心をもち，意欲的に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の相互関係や心情，場面についての描写を捉え，作者の優れた表現に着目して，物語の魅力をまとめている。【(1)工】 ○ 優れた表現に着目して物語の魅力を伝え合い，考えを広げたり深めたりしている。【(1)才】 	椋鳩十の作品を読み，語感や言葉の使い方，擬態語，擬声語，比喩等の表現の工夫に気づき，読んでいる。【(1) (工)】

4 単元を貫く言語活動

本単元を貫く言語活動として，「B 書くこと 本の優れた表現を中心に，物語の魅力を伝え合う言語活動」の「本の魅力紹介カード」を書く活動を位置付けるようにする。この「本の魅力紹介カード」には，友達に自分が読んだ物語の概要，魅力や興味をもった優れた表現を知ってもらうために，登場人物の相互関係や読み進める中で印象に残った表現やその理由を書いて紹介するようにする。

このように，登場人物の相互関係や心情を中心に物語の概要を説明した後，物語で使われている心情や場面の様子を効果的に伝える優れた表現の中から一つを取り上げて本の魅力として紹介する活動を位置付けることで，子どもが「自分事の問い」をもって，主体的に教材文を読んだり，学習したことを生かして自分の考えを表現したりすることができるように考える。

5 単元について

(1) 単元の位置とねらい

子どもたちは，5年生の「登場人物どうしの関わりをとらえ，感想を伝え合おう」の学習で登場人物同士の関わりがきっかけとなる出来事を通してどのように変化していったのか捉え，二人の関わり方に対する考えを友達と交流し，読みを深める学習に取り組んできた。

そこで，本単元においては，残雪との関わりの中で二人の関係や大造じいさんの心情がどのように移り変わっていくのかを読んだり，登場人物の心情や場面の様子を効果的に伝える心情描写や行動描写，情景描写など作者の優れた表現を捉えながら読んだりする活動に取り組むようにする。そうすることで，「登場人物の相互関係や心情，場面についての描写を捉える能力」を身に付けることができるようにする。また，「大造じいさんとガン」の物語の中から自分が強く印象に残った優れた表現やその理由を基に，物語の魅力としてまとめるようにする。そして，物語の魅力について友達と伝え合い，感じ方の共通点や相違点を交流することで，「優れた表現に着目して物語の魅力を伝え合い，互いの考えを広げたり深めたりする能力」を身に付けることができるようにする。さらに，他の椋鳩十作品を読み，物語の魅力を紹介し交流する活動に取り組むことで，目指す国語の能力を確かに身に付けることができるようにする。

ここでの学習は，登場人物のものの見方・考え方や物語の構成，方言の効果に着目して読み，物語の面白さを友達に紹介する3学期単元「特色をとらえながら読み，物語をめぐって話し合おう（教材『わらぐつの中の神様』）」の学習へとつながっていく。

(2) 教材について

教材「大造じいさんとガン」は，ガンの頭領残雪と，狩人の大造じいさんとの間に繰り広げられる戦いを通して，残雪のもつ知恵，統率力や勇気に対して時に怒り，時に感動しながら心が近付いていく大造じいさんの人間味あふれる姿が描かれた作品である。また，物語の展開部分や山場の部分などの随所に，登場人物の心情を伺い知ることができる心情描写や行動描写，そして情景描写などの優れた表現が豊かに使われており，読者も大造じいさんに共感したり，疑問をもったりしながら読み進めることができる作品となっている。これらのことから優れた表現に着目して物語の魅力を伝え合い，互いの考えを広げたり深めたりするために適した教材である。

(3) 子どもの実態（調査日 平成27年9月4日 調査人数29人）

本単元の内容に関わる子どもの実態については、以下のとおりである。（数字は人数）

<p>【調査 1】 文学的文章を読むための能力【叙述を基に登場人物の心情を読むことができる】 根拠となる叙述を基に登場人物の心情を読むことができる。(23) 根拠となる叙述を基に登場人物の心情を読むことがもう少しである。(6)</p>
<p>【調査 2】 文学的文章を読むための能力【叙述を基に登場人物一人の心情の変化を読むことができる】 転機と出来事を経てどのように心情が変化したのか読むことができる。(22) 転機と出来事を経てどのように心情が変化したのか読むことがもう少しである。(7)</p>
<p>【調査 3】 自分の考えの形成及び交流に関わる能力【優れた表現に着目して読んだ感想をもつことができる】 物語の中の優れた表現に着目して感想をまとめることができる。(7) 物語の中の優れた表現に着目して感想をまとめることがもう少しである。(23)</p>
<p>【調査 4】 自分の考えの形成及び交流に関わる能力【自他の考えの共通点や相違点を基に感想をまとめることができる】 交流の結果を生かして自分の考えを広げたり深めたりできる。(16) 交流の結果を生かして自分の考えを広げたり深めたりすることがもう少しである。(13)</p>

6 指導に当たって

(1) 「自分事の問い」をもつための手立ての充実（単元導入・本時の手立て）【研究内容 1】

単元の「つかむ・見通す」過程において、「ごんぎつね」の魅力を紹介する試行の活動に取り組んだり、教師のモデルと比較したりする活動に取り組むようにする。そうすることで、「本の魅力紹介カード」をつくるために、登場人物の相互関係や優れた表現に着目して読むことに対する必要感や切実感を高め、「単元を貫く『自分事の問い』」をもつことができるようにする。

本時においては、「本の魅力紹介カード」の進捗状況や言語活動の遂行に向けて前時まで解決してきた学習内容を振り返ることで、「一単位時間の『自分事の問い』」をもつとともに、解決の見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。

(2) 「自分事の問い」の解決につながる「学び合い」（本時の手立て）【研究内容 2】

以下の手立てを工夫することで、子どもが「自分事の問い」の解決につながる「学び合い」に主体的に臨むことができるようにする。

過程	手立て	「自分事の問い」の解決につながる「学び合い」の手立ての工夫
まとめる	目的と視点	電子黒板に「学び合い」の手順や方法を示すことで、子どもがグループでの「学び合い」の目的（教材文の空白部分には、どのような表現がふさわしいのかグループで考えをまとめ、自分の考えに生かすために）と視点（大造じいさんの心情を表すためによりよい表現はどれか、互いの考えを比較、分類・整理し、考えをまとめる）をもって話し合うことができるようにする。
	方法（教具）	根拠を基に互いの考えを比較、分類・整理し、一つにまとめさせることで、子ども一人一人が「自分事の問い」の解決に向け、明確な視点をもって「学び合い」に臨み、強固、付加・修正しながら、自分の考えに生かすことができるようにする。
	教師の関わり	教材文の空白部分にどのような表現を書き入れるべきか「学び合い」が停滞しているグループに対しては、これまでの学習でつかんだ大造じいさんの残雪に対する心情を根拠とするよう言葉掛けをすることで、その心情を表す表現はどのようなものがふさわしいか考えをまとめることができるようにする。
広げる	教師の関わり	板書上に並べた各グループの考えを比較、分類・整理させたり、なぜそのような表現がふさわしいと考えたのか理由を発表させたりすることで、空白部分の表現は大造じいさんの残雪に対する尊敬や感動といった心情と関係があることに気付くことができるようにする。また、作者の原文も同様の意図をもって独特の言い回しを用いていることよさに触れることで、優れた表現の工夫に気付くことができるようにする。

(3) 自己の変容を実感できる評価の在り方（単元における手立て）【研究内容 3】

以下のような手立てをとることで、子どもが自己の変容を実感することができるようにする。

手立て	自己の変容を実感できる評価の工夫
子どもの自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習計画表に示された評価の観点を基に、各過程の一単位時間の最後に授業を通してどのようなことが分かったりできたりしたのか振り返ることで、自己評価を積み重ね単元の終末に自己の変容を実感することができるようにする。 ○ 試しの作品と完成した作品を単元の最後に比較したり、単元の各過程の評価の記述を振り返ったりすることで、自己の変容を実感することができるようにする。
教師の関わり	「単元構想シート」を基に身に付けるべき能力を子どもの発言や自己評価を基に見取り、適時称賛することで子ども一人一人が自己の変容を実感できるようにする。

8 本 時 (6 / 10)

(1) 目 標 第三場面に描かれた大造じいさんの心情を表す優れた表現を理解することができる。

(2) 展 開 □ は教師の言葉かけ [] は予想される子どもの反応 ◆ は重点評価項目 ☆ は ICT 活用の留意点

過程 (分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導・評価
見 か む (4)	<p>1 これまでの取組を想起し、本時の学習内容について話し合う。</p> <p>「本の魅力紹介カード」完成に向けてどんな学習に取り組んできましたか。</p> <p>「物語の登場人物の関係を考えました。」</p> <p>「残雪や大造じいさんの様子を調べました。」</p> <p>今日は、どの場面を中心に読みますか。</p> <p>第二場面を読んで、優れた表現の中に情景と行動の表現があることを勉強したので今日は、第三場面で見付けます。</p>	<p>○ 本単元の学習の目標や「本の魅力紹介カード」の進捗状況、前時までの学習内容を振り返ることで、本時はどのような学習に取り組む必要があるか考えさせ、一単位時間の『自分事の問い』をもつことができるようにする。</p> <p>☆ 学習の流れを電子黒板に掲示し、全体やペアで確認することで、子ども一人一人が「自分事の問い」をもって学ぶことができるようにする。</p>
調 深 め る (15)	<p>2 本時の学習課題を立てる。【「自分事の問い」】</p> <p>大造じいさんとガンの第三場面には、どのような表現があるのだろうか。</p> <p>3 解決の見通しを全体やペアで確認する。</p> <p>4 第三場面で起きた出来事や残雪と大造じいさんの様子を確かめる。</p> <p>5 教材文の空白部分を作者はどのような表現で書き表したのか考える。</p> <p>6 グループで話し合い、考えをまとめる。【「学び合い」】</p> <p>第三場面の空白部分には、どのような表現がふさわしいのかがグループで考えをまとめ、自分の考えに生かすために、大造じいさんの心情を表すために、よい表現はどれか考えを比べたり、仲間分け (分類・整理) したりして、説得力がある一つの考えをつくりましょう。</p>	<p>○ これまでの学習でまとめたワークシートや教室に掲示してある学びの足跡などを基に本場面の出来事や残雪の様子を確認することで、大造じいさんの心情に関わる空白部分の叙述を考えることができるようにする。</p> <p>☆ 「学び合い」の目的と視点を確認したり、電子黒板に手順や方法を示したりすることで、子ども一人一人が解決に向け、互いの考えを比較、分類・整理しながら、強固、付加・修正することができるようになる。</p>
ま と め る (20)	<p>7 グループでの「学び合い」の結果を全体で話し合う。</p> <p>8 本時の学習について分かったことをまとめる。</p> <p>第三場面には、主人公の相手に対する心情を巧みに表す表現がみられた。「いかにも頭傾らしい」「堂々たる」…残雪に対する大造じいさんの尊敬の心情。</p> <p>9 並行読書の作品の中から、優れた表現を見付けろ。</p> <p>10 「自分事の問い」をもって学んだ結果を振り返る。【自己評価】</p> <p>㊦ 第三場面には、相手に対する心情をよく表した優れた心情表現が使われていることが分かりました。</p> <p>㊧ 他の椋鳩十作品の中からも、優れた心情表現を見付けることができました。</p>	<p>○ 「学び合い」が停滞しているグループに対しては、大造じいさんの残雪に対する心情に着目させ、根拠とするよう言葉掛けを行うことで、空白部分にふさわしい表現について考えをまとめることができるようになる。</p> <p>○ 各グループの考えを板書上で比較、分類・整理し、なぜそのような表現にしたのか理由を交流したり、原文と比較したりする中で、空白部分には主人公の相手に対する心情を巧みに表した表現がふさわしいことに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 本時の学習を生かして、大造じいさんとガン以外の椋鳩十作品の中から、優れた心情表現を見付けることで、自己の高まりを実感することができるようになる。</p> <p>○ 自己評価を基に個々の学びの結果を見取り、称賛することで、子ども一人一人が自己の変容を実感することができるようにする。</p>
高 め る (6)		<p>◆ 第三場面に描かれた椋鳩十の心情を表す優れた表現を理解することができる。</p> <p>【読む能力：発表、ノート記述】</p>